

表2 JIS分類

部門・記号	NSST 関連の対象	部門・記号	NSST 関連の対象
A 土木・建築		M 鉱山	
B 一般機械		P ハルブ、紙	
C 電子機器、電気機械		Q 管理システム	標準物質、管理システム
D 自動車		R 窯業	
E 鉄道		S 日用品	
F 船舶		T 医療安全器具	
G 鉄鋼	分析、原材料、鋼材	W 航空	
H 非鉄金属	分析方法、展伸材	X 情報処理	
K 化学	化学分析、試薬	Z その他	共通試験方法
L 繊維			

図2 油井用鋼管 (新日鉄住金規格)

出典:新日鉄住金HP

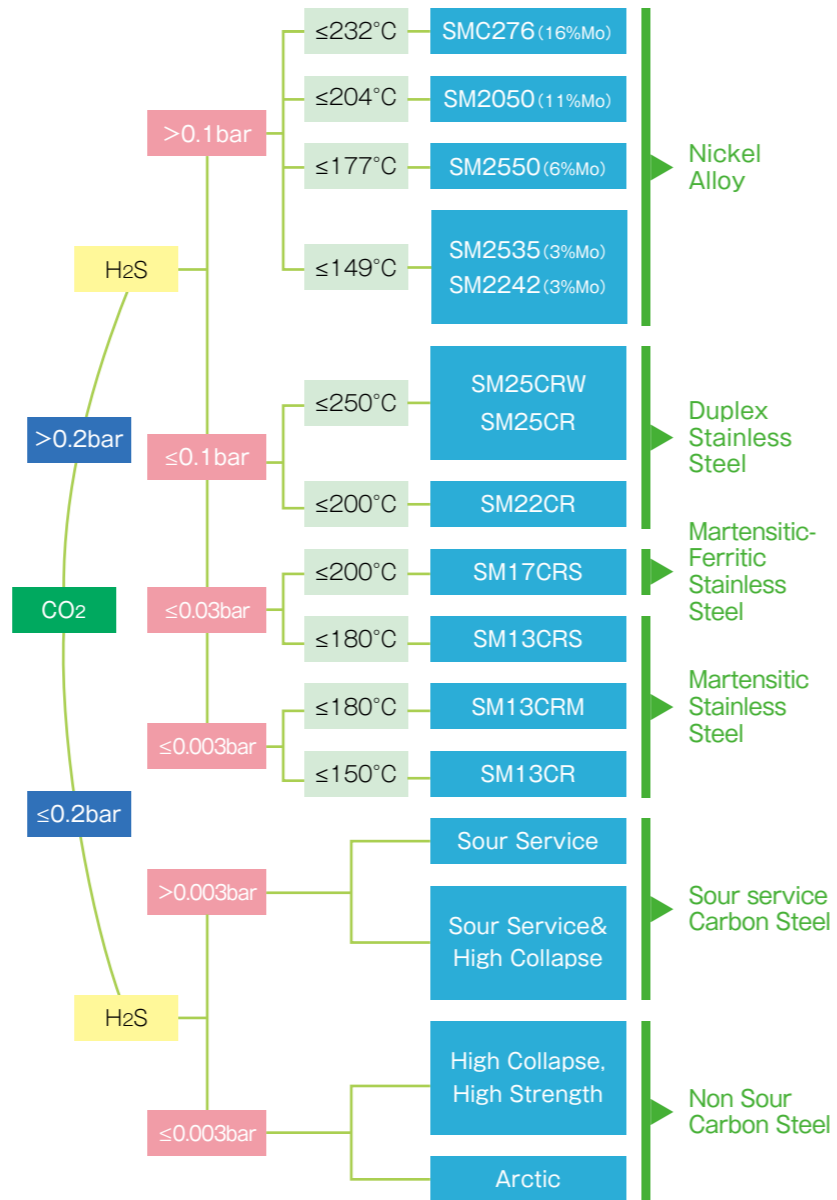


図3 JIS鉄鋼製品規格 代表的な構成例

序文	7. 寸法公差
1. 適用範囲	8. 外観
2. 引用規格*	9. 試験
3. 種類及び記号	10. 検査
4. 製造方法	11. 表示
5. 化学成分	12. 報告
6. 機械的性質	付属書

\*ここに試験・分析方法などの規格番号、規格名が列記される。

図1

### 規格の種類

出典：一般財団法人 日本規格協会 標準化教育プログラム



表1 種類 (新日鉄住金「冷延鋼板」カタログ)

出典:新日鉄住金「冷延鋼板」カタログ

#### 1. 一般冷延鋼板 (JIS規格:JIS G 3141)

	種類の番号	特長	用途例
一般用	SPCC SPCCT※1	曲げ加工および簡単な絞り加工に適しており、最も需要の多い品種です。	冷蔵庫、キャビネット、配電盤、ドラム缶等
絞り用	SPCD	SPCEに次ぐ優れた絞り性が得られる鋼板で、品質のバラツキの少ない絞り用鋼板です。	自動車のフロアー、ルーフ等
深絞り用	SPCE SPCF※2	冶金学的に結晶粒を調整した深絞り性に優れた鋼板で、深絞り加工後も美しい表面肌が得られます。	自動車のフェンダー、クォーターパネル等
超深絞り用	SPCG※2	極低炭冷延鋼板で、優れた深絞り加工性を持っています。	自動車の内部パネル等、超深絞り部品

※1…ご指定により、引張強さおよび伸びを保証する場合、末尾にTを付けて、SPCCTとします。

※2…製造工場出荷後6カ月間、非時効性を保証します。非時効性とは、加工の際にストレッチャー・ストレーンを発生しない性質をいいます。

#### 2. 特殊冷延鋼板

##### ●加工用鋼板 (新日鉄住金規格)

	種類の番号	特長	用途例
一般用	NSCC	加工性を重視した一般用で降伏点が低く、遅時効性を持った鋼板です。	自動車のドア、フード等、浅絞り部品
絞り用	NSC270D NSC270E	絞り加工性に優れ、広い加工用途に適しています。	自動車のサイドパネル、フロアー等、絞り部品
超深絞り用	NSC270F	極低炭冷延鋼板で、加工性に優れています。	自動車のクォーターパネル等
	NSC270G	極低炭冷延鋼板で、優れた深絞り加工性を持っています。	自動車のオイルパン、ハイルーフ等、超深絞り部品

規格への心構え  
規格は一度制定されて終わりではありません。表現のあいまいさによる解釈差異や、設備・試験技術革新などを踏まえ、改正されていきます。従って最新版の把握と改正への意識を持ちながら、一義的には規格の遵守への心構えを持ちましょう。  
(技術総括部)

### 規格への心構え

試験や分析方法規格には類似の規格が結構ありますが、鉄鋼製品の製品規格に引用規格という箇条があり、ここに試験・分析方法規格がリストアップされています(図3)。この規格番号が製品の品質要求内容の箇条にて引用されることで初めて、鉄鋼製品の品質保証としての役割が与えられることとなります。従って、品質保証としての試験・分析については、依頼主の新日鉄住金に対し、どの試験・分析方法規格を適用するのかの確認が大切です。

規格とは、主に産業や技術の分野において製品や原材料、器具などの種類、寸法、性能や試験方法などの技術的仕様を定めたものです。規格は標準化の成果物と捉えられますが、標準化は規格化より広範囲に扱われています。規格の制定の目的は、品質や安全性の改善、生産性の向上などを図るため、合理化、コスト低減、国際競争力強化及び互換性などのメリットが享受できます。

規格の多くは標準化団体によって策定されますが、特定の製品において採用されたものが一般化され、事実上の標準になったものも結構あります(ブルーレイディスクなど)。規格は鉄鋼製品の品質保証上きわめて重要です。お客様との契約において、なんらかの規格が適用される場合がほとんどです。

規格の種類

図1に示すように、最上位の国際規格から地方規格にいたるまで、各層に分かれて様々な規格が存在します。当社に関係が深い規格は製品の品質保証に適用される試験・分析方法規格ですが、その代表格がJISです。また、民間企業が独自に定めている規格の例を表1、図2に示します。

JISについて

JISは試験・分析方法も含め、広範囲な産業分野をカバーした日本の国家規格です。経済産業省に設置された日本工業標準調査会(JISC)が原案を調査・審議しています。2016年3月末

で、1万542規格が制定されています。JISはその性格によって次の三つに分類することができます。

①基本規格：用語、記号、単位、標準数値などの共通事項を規定したもの

②方法規格：試験、分析、検査及び測定の方法などを規定したもの

③製品規格：製品の形状、寸法、材質、性能、機能などを規定したもの

表2にJIS全体の分類と当社に関わりの深い規格を示します。鉄鋼製品の品質保証に関連するJISは日本鉄鋼連盟が多くの規格の標準化団体としての役割を担っています。

鉄の品質保証としての試験・分析方法規格

試験や分析方法規格には類似の規格が結構ありますが、鉄鋼製品の製品規格に引用規格という箇条があり、ここに試験・分析方法規格がリストアップされています(図3)。この規格番号が製品の品質要求内容の箇条にて引用されることで初めて、鉄鋼製品の品質保証としての役割が与えられることとなります。従って、品質保証としての試験・分析については、依頼主の新日鉄住金に対し、どの試験・分析方法規格を適用するのかの確認が大切です。

規格とは

規格とは、主に産業や技術の分野において製品や原材料、器具などの種類、寸法、性能や試験方法などの技術的仕様を定めたものです。規格は標準化の成果物と捉えられますが、標準化は規格化より広範囲に扱われています。規格の制定の目的は、品質や安全性の改善、生産性の向上などを図るため、合理化、コスト低減、国際競争力強化及び互換性などのメリットが享受できます。

規格の種類

図1に示すように、最上位の国際規格から地方規格にいたるまで、各層に分かれて様々な規格が存在します。当社に関係が深い規格は製品の品質保証に適用される試験・分析方法規格ですが、その代表格がJISです。また、民間企業が独自に定めている規格の例を表1、図2に示します。

JISについて

JISは試験・分析方法も含め、広範囲な産業分野をカバーした日本の国家規格です。経済産業省に設置された日本工業標準調査会(JISC)が原案を調査・審議しています。2016年3月末

で、1万542規格が制定されています。JISはその性格によって次の三つに分類することができます。

①基本規格：用語、記号、単位、標準数値などの共通事項を規定したもの

②方法規格：試験、分析、検査及び測定の方法などを規定したもの

③製品規格：製品の形状、寸法、材質、性能、機能などを規定したもの

表2にJIS全体の分類と当社に関わりの深い規格を示します。鉄鋼製品の品質保証に関連するJISは日本鉄鋼連盟が多くの規格の標準化団体としての役割を担っています。

鉄の品質保証としての試験・分析方法規格

試験や分析方法規格には類似の規格が結構ありますが、鉄鋼製品の製品規格に引用規格という箇条があり、ここに試験・分析方法規格がリストアップされています(図3)。この規格番号が製品の品質要求内容の箇条にて引用されることで初めて、鉄鋼製品の品質保証としての役割が与えられることとなります。従って、品質保証としての試験・分析については、依頼主の新日鉄住金に対し、どの試験・分析方法規格を適用するのかの確認が大切です。

規格とは

規格とは、主に産業や技術の分野において製品や原材料、器具などの種類、寸法、性能や試験方法などの技術的仕様を定めたものです。規格は標準化の成果物と捉えられますが、標準化は規格化より広範囲に扱われています。規格の制定の目的は、品質や安全性の改善、生産性の向上などを図るため、合理化、コスト低減、国際競争力強化及び互換性などのメリットが享受できます。

規格の種類

図1に示すように、最上位の国際規格から地方規格にいたるまで、各層に分かれて様々な規格が存在します。当社に関係が深い規格は製品の品質保証に適用される試験・分析方法規格ですが、その代表格がJISです。また、民間企業が独自に定めている規格の例を表1、図2に示します。

JISについて

JISは試験・分析方法も含め、広範囲な産業分野をカバーした日本の国家規格です。経済産業省に設置された日本工業標準調査会(JISC)が原案を調査・審議しています。2016年3月末

で、1万542規格が制定されています。JISはその性格によって次の三つに分類することができます。

①基本規格：用語、記号、単位、標準数値などの共通事項を規定したもの

②方法規格：試験、分析、検査及び測定の方法などを規定したもの

③製品規格：製品の形状、寸法、材質、性能、機能などを規定したもの

表2にJIS全体の分類と当社に関わりの深い規格を示します。鉄鋼製品の品質保証に関連するJISは日本鉄鋼連盟が多くの規格の標準化団体としての役割を担っています。

鉄の品質保証としての試験・分析方法規格

試験や分析方法規格には類似の規格が結構ありますが、鉄鋼製品の製品規格に引用規格という箇条があり、ここに試験・分析方法規格がリストアップされています(図3)。この規格番号が製品の品質要求内容の箇条にて引用されることで初めて、鉄鋼製品の品質保証としての役割が与えられることとなります。従って、品質保証としての試験・分析については、依頼主の新日鉄住金に対し、どの試験・分析方法規格を適用するのかの確認が大切です。

規格とは

規格とは、主に産業や技術の分野において製品や原材料、器具などの種類、寸法、性能や試験方法などの技術的仕様を定めたものです。規格は標準化の成果物と捉えられますが、標準化は規格化より広範囲に扱われています。規格の制定の目的は、品質や安全性の改善、生産性の向上などを図るため、合理化、コスト低減、国際競争力強化及び互換性などのメリットが享受できます。

規格の種類

図1に示すように、最上位の国際規格から地方規格にいたるまで、各層に分かれて様々な規格が存在します。当社に関係が深い規格は製品の品質保証に適用される試験・分析方法規格ですが、その代表格がJISです。また、民間企業が独自に定めている規格の例を表1、図2に示します。

JISについて

JISは試験・分析方法も含め、広範囲な産業分野をカバーした日本の国家規格です。経済産業省に設置された日本工業標準調査会(JISC)が原案を調査・審議しています。2016年3月末

で、1万542規格が制定されています。JISはその性格によって次の三つに分類することができます。

①基本規格：用語、記号、単位、標準数値などの共通事項を規定したもの

②方法規格：試験、分析、検査及び測定の方法などを規定したもの

③製品規格：製品の形状、寸法、材質、性能、機能などを規定したもの

表2にJIS全体の分類と当社に関わりの深い規格を示します。鉄鋼製品の品質保証に関連するJISは日本鉄鋼連盟が多くの規格の標準化団体としての役割を担っています。

鉄の品質保証としての試験・分析方法規格

試験や分析方法規格には類似の規格が結構ありますが、鉄鋼製品の製品規格に引用規格という箇条があり、ここに試験・分析方法規格がリストアップされています(図3)。この規格番号が製品の品質要求内容の箇条にて引用されることで初めて、鉄鋼製品の品質保証としての役割が与えられることとなります。従って、品質保証としての試験・分析については、依頼主の新日鉄住金に対し、どの試験・分析方法規格を適用するのかの確認が大切です。

規格とは

規格とは、主に産業や技術の分野において製品や原材料、器具などの種類、寸法、性能や試験方法などの技術的仕様を定めたものです。規格は標準化の成果物と捉えられますが、標準化は規格化より広範囲に扱われています。規格の制定の目的は、品質や安全性の改善、生産性の向上などを図るため、合理化、コスト低減、国際競争力強化及び互換性などのメリットが享受できます。

規格の種類

図1に示すように、最上位の国際規格から地方規格にいたるまで、各層に分かれて様々な規格が存在します。当社に関係が深い規格は製品の品質保証に適用される試験・分析方法規格ですが、その代表格がJISです。また、民間企業が独自に定めている規格の例を表1、図2に示します。